

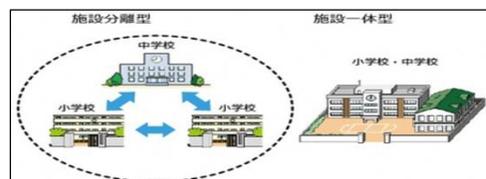
「義務教育学校と施設一体校とは」

【義務教育学校とは】

小学校6年間、中学校3年間の義務教育を、9年間の一貫したカリキュラムで運営する新たな学校。学校教育法の改正で2016年度から市町村の判断で設置できるようになった。

現在「6・3制」となっている学年の区切りは、学校が柔軟に設定することができるようになり「4・3・2制」や「5・4制」などの多様な区切りが可能である。

小中一貫教育の中には、義務教育学校と、小中一貫型小学校・中学校があり、校舎が一体型のタイプと、分離・隣接しているタイプがある。



小学校と中学校にそれぞれ校長がいる小中一貫校とは異なり、義務教育学校は、校舎は複数であっても校長1人が全体を管理する。

小中一貫教育		
種別	義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
施設	施設一体型 (施設分離型)	施設一体型 施設隣接型 施設分離型
校長	1名	それぞれ配置
職員組織	1つの教職員組織	それぞれ別々の教職員組織
修業年限	9年間 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年 中学校3年

【メリットとデメリット】

メリットとしては、子どものつまずきの原因の一つである、「中1ギャップ」の解消が期待されている。また、中学校の学習内容を小学生のうちから前倒して学習したり、カリキュラムを地域の実情に合わせて変更したりすることができる。

デメリットとしては、人間関係の固定化や、教員の免許状に関する研修などの課題があげられる。

【実施状況】

2016年度には全国で22校が開校し、2017年度内には39校が設置予定。

都道府県	学校名	小中一貫取組開始年度	施設	区切り	教育課程の特例
千葉県	市川市立塩浜学園	平成27	隣接型	4-3-2	一貫教科
東京都	品川区立品川学園	平成18	一体型	4-3-2	一貫教科、中小前倒し、小内・中内入替え ※2

※資料は一部抜粋したもの

(事例1) 既存学校施設の有効活用

(事例2) 地域と共にある学校施設の整備

特別教室型から教科教室型へ改修

【数学教室】

【ホームベース】
(生徒の居場所)

中学校段階においては、生徒自らが主体的に学ぶことを重視して教科教室型に改修している

府南学園(第一中学校)

地域ぐるみで子供たちの学びを支える場の確保

【語り部の部屋】

地域住民を招き、民話学習や茶道教室等が行われている

【郷土資料室】

郷土が生んだ文学者や芸術家等の作品を紹介している

湖南小中学校

【参考資料】 文部科学省 平成28年度における義務教育学校 小中一貫型小学校・中学校の設置状況
 文部科学省 小中一貫教育の制度設計の全体像